

# 小島地区ふれあいセンターだより



令和6年2月 第404号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



2月の行事予定

※毎週月曜日は休所日です。

開催日	行事名	
2日(金)	子育て教室	午前10時～11時30分
6日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会	午前10時～11時
7日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
9日(金)	愛宕3丁目自治会給食会	
10日(土)	小島愛宕地区老人連合会定例会議	午前10時～11時
13日(火)	小島中学校区青少年育成協議会	
21日(水)	すこやか運動教室(生涯元気事業)	午前10時～12時
24日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会	午前10時30分～
25日(土)	小島地区連合自治会連絡会議	

## 【お知らせ】

### 「ふれあいバザー」の開催について(お知らせ)

「小島地区ふれあいセンター」では、ふれあいセンターの円滑な運営を図るため、例年、春に「ふれあいバザー」を開催していました。

令和2年度から4年度におきましては、新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から中止しておりましたが、本年度は、下記のとおり、4年ぶりに「ふれあいバザー」を開催することといたしました。ご多忙中とは思いますが「ふれあいバザー」にお出かけ下さいますよう、ご案内申し上げます。

日時 3月3日(日) 午前10時から11時30分まで

会場 小島地区ふれあいセンター 1階 図書室・児童図書館

主催 小島地区ふれあいセンターバザー実行委員会

販売品 衣類・調度品・寝具類・和洋装品・食品類・玩具類・台所用品(陶器類、漆器類など)・日用雑貨・小物類

皆様のご来場をお待ちしています。



### 「ふれあいバザー」の開催に伴う献品の御協力について(お願い)

「ふれあいバザー」の主旨をご理解いただき、バザー献品の出品について、ご協力をお願い申し上げます。なお、衣類や、その他の献品につきましては、「小島地区ふれあいセンター」まで、ご持参下さるようお願いいたします。



## 「正月用いけ花教室」講座について

十二月二十八日（木）に、小島地区ふれあいセンターの主催講座として、講師の納富やい子先生による恒例の「正月用いけ花教室」を開催しました。

テーマは「フラワーアレンジメントを楽しみませんか！」で、十三名の方が参加されました。

参加者の皆さんは、お正月用の美しいフラワーアレンジメントづくりを楽しみました。

花材は、若松、千両、五色南天、葉ボタン、シンビジューム、カーネーション、華たま飾りなど豪華な、お正月花が生けられました。



## 長崎雑話（6） 竹方其

### 伊藤小左衛門事件（二）

さて、長崎においては長崎港外・野母崎から樺島・伊王島にかけて、また港内で小規模に、また唐蘭館、新地唐人荷物蔵などで行われた。中には船載品を盗むことも、度々みられた。

唐蘭船の入航中は、長崎町内の警戒は厳重で、各町の大門は、聖福寺の午後8時の鐘の合図に一斉に閉じられた。長崎での警戒は、春から夏にかけて貿易風を利用して蘭船が来、北風が吹く秋に入って帰航する。唐船も然り、この来航の時期が一番厳しかった。

ばはん禁止の要旨は

①金銀銅の海外流失を防ぐこと。

②その他、内外禁制品の輸出入防止。

③切支丹の取締りである。

この、ばはん防止のため、長崎町内の者で唐物を買った場合には、五人組に届け出で検分を受ける決まりであった。この唐物は全国に流通していくわけであるが、この唐物取引をするために、長崎には江戸・京・大阪・堺・小倉等の問屋があつて、それを購入し本店に送って一般に売り捌いた。この唐物売り捌きを監督するために、江戸・京・大阪・堺・長崎に五箇所会所が置かれた。長崎は、ばはん師の巢窟で、博多の豪商 伊藤小左衛門、長崎代官 末次平蔵政直などは、その代表的人物である。いうならば、長崎の唐物商で多少とも、ばはん的行為のなかつた者は、殆どなかつたであろう。



○(眼鏡橋) つづき

・橋の改修工事にあわせ、東岸と西岸に川のバイパス工事が行なわれ、橋の崩壊防止措置が取られています。

・ブルミエール・フクダの外壁に、水害当時の水位線が残されています。

・近藤利治郎(チョウジロウ)顕彰碑、平成23年建立。

長↓租の文字は、土佐藩主が長次郎の死後に贈呈したものです。

※坂本龍馬が土佐藩を脱藩以降、常に付き従っていた同士です。

・ハートの石。川辺に下りて石垣を探してください。十数個見つけた話も聞きます。

☆旧正月に行なわれるランタンフェスティバルでは、中島川の眼鏡橋近辺は黄色のランタンに彩られ、川の中にも、水鳥や水草のランタンオブゼが水辺に映えて、素晴らしい景観を見せています。

第11橋 (袋橋) 袋町

市有形文化財 昭和46・10・21指定

1648〜1652年(慶安年間) 眼鏡橋に次ぐ古い石橋と云われます。

長崎大水害で半壊(S 57・7・23)1982、昭和60年(1985)修復。

・擬宝珠く葱坊主(ネギボウス)く風水(魔除)、臭いものを嫌う。初期の架設のみ。

※外には眼鏡橋・高麗橋・大手橋のみ。

元々は「木廊橋」が寛永年間(1624〜1645)に架かっていましたが、正保4年(1647)の水害で流されました。

・材質は、安山岩、風頭の石です。

・眼鏡橋に次ぐ古い橋にも関わらず「長崎名勝図絵」(執筆は文化・文政年間と言われます)に沿革等、何の記載もありません。

☆この橋の下流階段側には、戦前から船上割烹の「かき船」が係留されていました。船の長さは10mくらい。

眼鏡橋



伊藤小左衛門事件(一)

長崎における犯罪は貿易都市であるゆえ、貿易に絡む犯罪(密貿易)が多くみられる。いわゆる海港都市としての特殊な事情がここにあつたわけである。

江戸期以前より、海外貿易は盛んに行われ、東アジアにおけるわが国の船舶は、相当な成果をみたようであるが、交渉が成り立たないと海賊行為に走り、倭寇という言葉に見られるように、朝鮮、中国沿岸部において恐れられていた。彼等は『八幡大菩薩』の船旗を翻していたので『八幡船(ばはんせん)』と呼ばれた。このことから、『八幡船』は海賊の意味に遣われたが、後には抜荷買(ぬけにがい)つまり、密貿易の意味に用いられるようになった。その方法としては、大船を仕立て外国へ渡るもの、あるいは五島・平戸・対馬・博多・下関などの沖合で抜荷買をするもの、長崎へ入港前後に行うものなどがあつた。

なぜ、このような密貿易が行われるようになったのか、それは江戸幕府による貿易制限令(通貨及び銅などの流出を防ぐ)により、利潤を密貿易に頼らねばならないという必然性があつたからである。

正徳4年(1715)5月の達示によると「最近、長崎往來の唐船の私商売は多く、唐船も通常の航路を変え、海上に何日もいて、山陰などを利用して番船の眼の届かぬところで密貿易をしている」ということなどで、唐船については嚴重な取締りを行った。



## 〈新着図書のご案内〉



	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	大川契り	西條 奈加	新潮社
	跡を消す	前川 ほまれ	ポプラ社
	シークレット・ペイン	前川 ほまれ	ポプラ社
	ヘバーデン結節がわかる本	笠原 巖	自由国民社
	世界の今がわかる「地理」の本	井田 仁康	三笠書房
	買い負ける日本	坂口 孝則	幻冬舎
	抹茶革命と長崎	前田 拓	長崎文献社
	ビギナーズ家族	小佐野 弾	小学館
	日本人のこころ	山久瀬 洋二	IBC パブリッシング
	食品の裏と表	小藪 浩二郎	ビジネス社
	純情ヨーロッパ	たかの てるこ	幻冬舎
	とにかく仕組み化	安藤 広大	ダイヤモンド社
	ヴァンプドッグは叫ばない	市川 憂人	東京創元社
	ちぎれた鎖と光の切れ端	荒木 あかね	講談社
	長崎ペンギン物語	白井 和夫	長崎文献社
	ウクライナ危機後の地政学	藤 和彦	集英社
	血管年齢も若返る！血流改善ストレッチ	酒井 均	宝島社
	からだの中から整うおかゆレシピ	堤 人美	エムディエヌコーポレーション
	ブギの女王・笠置シズ子	砂古口 早苗	潮出版社
ことば、身体、学び	為末 大	扶桑社	
児 童 図 書	ぼくたち、ここにいるよ	アキノ 隊員	影書房
	どんぐり	たての ひろし	小峰書店
	20びきのおいしいあき	たしろ ちさと	ひかりのくに
	ぎょうざがいなくなりさがしています	玉田 美知子	講談社
	センニンじいさんしゅぎょうちゅう！	横田 明子	国土社
	池上彰のこれからの小学生に必要な教養	池上 彰	主婦の友社
	ピースケのいえで	たかどの ほうこ	童心社
	こらしめじぞう	村上 しいこ	静山社
	ごむのじっけん	加古 里子	福音館書店
	クリスマスマーケット	隆矢 なな	福音館書店